



気仙沼市 第13回防災文化講演会, 復興状況視察 (2016/07/16-17)

場所：気仙沼市 気仙沼中央公民館

参加者：今村教授*, アナワット准教授*, 佐藤助教**, 保田助手*, ナット研究員*

山下助教**, 安倍助手**, 牧野嶋****

* 災害リスク研究部門 津波工学研究分野, ** 情報管理・社会連携部門 災害アーカイブ研究分野

*** 寄附研究部門 (東京海上日動 地震津波リスク評価), **** 津波工学研究室 学生 (D1)

上記, 津波工学研究室メンバーが 7/16 に開催された第 13 回防災文化講演会「津波研究のいまとこれから～東日本大震災はどこまでわかったか, 今後何に取り組むべきか～」(主催: 東北大学災害科学国際研究所, 共催: 気仙沼市) に参加し, 以下の題目で講演を行いました。

今村文彦 「最近災害等を経験した中での東日本大震災の教訓をつなぐ役割」

山下啓 「津波土砂移動がもたらした津波被害拡大の実態

—京コンピュータを活用した数値シミュレーションで明らかに—」

サッパシー アナワット・リーラワット ナット

「モバイルアプリケーションを用いた津波防災ツール

—東日本大震災による気仙沼市における被害データを活用した例—」

保田真理 「災害に強い地域づくり—災害への理解と備え—」

安倍祥・牧野嶋文泰

「気仙沼市での津波避難シミュレーションと, 地域でつくる津波避難計画」

今回の公演では 60 名を超える気仙沼市内外の方々にお越しいただき, 講演で紹介された内容についてのご質問・議論や震災当時の貴重な体験談をお話いただくことができました。

また, 講演の翌日には, およそ気仙沼市から南三陸町にかけて震災からの復興状況視察を行い, 災害公営住宅などの建設で復興が進むまちのようすや, 防潮堤などの防災施設整備のようすを視察し, 議論しました。今回の講演や巡検の中で, 住民の方々の意見・議論を聞き, 復興状況を確認したなかで, 改めてより一層, 研究に励まなければいけないと感じるとともに, 研究成果が地域の実際の防災に生かされるような研究を進めていきたいと感じました。

次頁に講演会・巡検のようす (写真) があります。

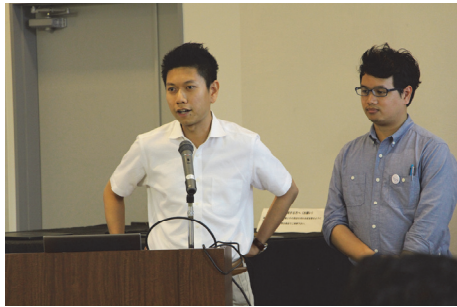
(文責: 牧野嶋)



今村教授 講演のようす



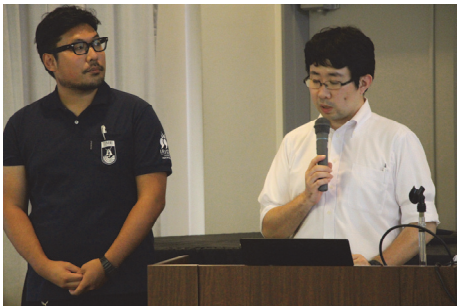
山下助教 講演のようす



アナワット准教授・ナット研究員 講演のようす



保田助手 講演のようす



安倍助手・牧野嶋 講演のようす



講演会のようす



復興状況視察のようす